

# 逆写像・逆行列・回転変換・回転行列|0章平面と1次変換

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

線形代数☆演習 I L09(2024-05-10 Fri)

最終更新: Time-stamp: "2024-05-11 Sat 10:18 JST hig"

## 今日の目標

- 加藤 線形代数 §0.3(p.14) 角  $\theta$  の回転行列  $R_\theta$  を書ける
- 加藤 線形代数 §1.3(p.34) 行列  $A$  の逆行列  $A^{-1}$  を書ける
- 加藤 線形代数 §0.3(p.12) 逆写像と逆行列を説明できる



## L08-Q1

## Quiz 解答: 1 次変換を表す行列の求め方

対称変換  $f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$  は,  $f: \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} y \\ x \end{bmatrix}$ .

1 次変換  $f$  を表す行列を  $A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$  とすると,

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} y \\ x \end{bmatrix}$$

は,  $x, y$  についての恒等式. よって,  $a = d = 0, b = c = 1$ .

$$A = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$$

## 別解

1 次変換であることがわかっているなら, 一般の点  $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$  でなくても, 必要条件として具体的な ( $\mathbb{R}^2$  なら) 2 点, 例えば  $\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$  の写る先を考えて  $A$  を決定できる.

## L08-Q2

## L08-Q3

## Quiz 解答: 写像の合成

- ①  $f(x) = \sin x$ .  $g(f(x)) = (\sin x)^2 + 3$ .
- ②  $g(x) = x^2 + 3$ .  $f(g(x)) = \sin(x^2 + 3)$ .
- ③  $(g \circ f)(x) = g(f(x)) = (\sin x)^2 + 3$ .
- ④  $(f \circ g)(x) = f(g(x)) = \sin(x^2 + 3)$ .

## L08-Q4

## Quiz 解答:1 次変換の合成と行列の積

- ①  $f\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} x \\ -y \end{bmatrix}$ .  
 $A = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}$ .
- ②  $g\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} -y \\ -x \end{bmatrix}$ .  
 $B = \begin{bmatrix} 0 & -1 \\ -1 & 0 \end{bmatrix}$ .
- ③  $BA = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{bmatrix}$ .
- ④  $AB = \begin{bmatrix} 0 & -1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$ .
- ⑤  $(g \circ f)\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} y \\ -x \end{bmatrix}$ .
- ⑥  $(f \circ g)\left(\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} -y \\ x \end{bmatrix}$ .

## ここまで来たよ

8 写像の合成・行列の積|0 章平面と 1 次変換

9 逆写像・逆行列・回転変換・回転行列|0 章平面と 1 次変換

- ◆回転と 1 次変換|3. いろいろな 1 次変換
- ◆逆写像|3. いろいろな 1 次変換

◆回転と 1 次変換 加藤 線形代数 (p.13)

## 例 (回転変換)

原点のまわりに一般角  $\theta$  だけ回転移動する 1 次変換  $f_\theta$  を表す行列 (回転行列) は

$$R_\theta = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}.$$

なぜなら, 1 次変換であることを仮定して,

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{bmatrix}, \quad \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{bmatrix}$$

から 行列  $R_\theta$  を決めるとそうなる.

覚え方

自分の言葉でどうぞ

## L09-Q1

## Quiz(回転移動の 1 次変換の行列)

- ① 点  $\boldsymbol{x} = \begin{bmatrix} 6 \\ 2 \end{bmatrix}$  を, 原点を中心に  $\frac{2}{3}\pi$  だけ回転移動した点  $\boldsymbol{x}'$  を求めよう.
- ② 点  $\boldsymbol{x}'$  を, さらに, 原点を中心に  $\frac{1}{3}\pi$  だけ回転移動した点  $\boldsymbol{x}''$  を求めよう.

当然そうなるべきだが,  $R_\theta R_\phi = R_{\theta+\phi}$  が, 三角関数の加法定理から示せる.

加藤 線形代数 例題 6(p.14) mobius K0.3.40

## ここまで来たよ

8 写像の合成・行列の積|0 章平面と 1 次変換

9 逆写像・逆行列・回転変換・回転行列|0 章平面と 1 次変換

- ◆回転と 1 次変換|3. いろいろな 1 次変換
- ◆逆写像|3. いろいろな 1 次変換

## 最初にまとめ

写像・変換の言葉 (一般的)	行列・ベクトルの言葉
$\mathbb{R}^2$ の点 $\boldsymbol{x}$ $\mathbb{R}^2$ の 1 次変換 $f$ $\boldsymbol{x}$ の像は $f(\boldsymbol{x})$ 1 次変換 $f, g$ の合成変換 $g \circ f$ 1 次変換 $f$ の <b>逆変換</b> $f^{-1}$	2 次元ベクトル $\boldsymbol{x}$ (2 × 2) 行列 $A$ 行列とベクトルの積 $A\boldsymbol{x}$ 行列の積 $BA$ <b>逆行列</b> $A^{-1}$

## ◆逆写像

復習+ちょっと

写像

$$f : X \rightarrow Y$$

写像名 : 定義域 (domain)  $\rightarrow$  終域 (codomain)

$$f : a \mapsto b$$

写像名 : 要素, 元 (element)  $\mapsto$  像 (image)

「 $f(a) = b$ 」 「写像  $f$  による  $a$  の像は  $b$ 」 「写像  $f$  は  $a$  を  $b$  に写す」

定義 (値域 (range) 加藤 線形代数 p.12)

終域の部分集合  $\{f(x)|x \in X\} \subset Y$  を  $f$  の値域という。

定義 (上への (onto) 写像, 全射 (surjection) 加藤 線形代数 p.12)

$f$  は  $X$  から  $Y$  の上への写像  $\Leftrightarrow$  値域=終域

定義 (1 対 1 の (one-to-one) 写像, 単射 (injection) 加藤 線形代数 p.13)

$f$  は 1 対 1 の写像  $\Leftrightarrow (a \neq b \Rightarrow f(a) \neq f(b))$

定義 (全単射 (bijection) 加藤 線形代数 p.13)

$f$  が全単射  $\Leftrightarrow f$  が  $Y$  の上への 1 対 1 の写像

## 定義 (逆写像)

$f$  が  $Y$  の上への 1 対 1 の写像であるとき  
 $Y$  の各要素  $y$  に対して  $f(x) = y$  となる  $X$  の要素がただひとつ定まる.  
 $g: y \mapsto x$  で写像  $g: Y \rightarrow X$  を定める.  
 $g$  を  $f$  の逆写像といい,  $f^{-1}$  とかく.

$$f^{-1}: Y \rightarrow X$$
$$f(x) \mapsto x$$

変換なら **逆変換**

写像・関数の肩の  $^{-1}$  は **(逆数ではなく)** 逆写像・逆関数

## L09-Q2

## Quiz(逆変換)

- ①  $\mathbb{R}$  の変換  $f : x \mapsto 3x$  に逆変換があれば求めよう.
- ②  $\mathbb{R}$  の変換  $g : x \mapsto x^2$  に逆変換があれば求めよう.
- ③  $\mathbb{R}$  の変換  $h : x \mapsto e^x$  に逆変換があれば求めよう.

(変換は写像)

## 逆写像の性質

### 命題 (逆写像の逆写像)

逆写像の逆写像はもとの写像. すなわち  $(f^{-1})^{-1} = f$

### 定義 (恒等写像 (恒等変換))

$$\text{id}_X : X \rightarrow X$$

$$\text{id}_X : x \mapsto x.$$

### 命題 ( $\mathbb{R}^2$ の恒等変換)

$\text{id}_{\mathbb{R}^2}$  は 1 次変換で, **単位行列**  $E = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$  で表される.

### 命題 (逆写像の性質)

$f : X \rightarrow Y$ , 1 対 1 で上への写像のとき,

$$f \circ f^{-1} = \text{id}_Y$$

$$f^{-1} \circ f = \text{id}_X$$

## 1 次変換の逆変換の行列は?

逆行列を求める

### 例 (一般の 1 次変換の逆変換)

1 次変換  $f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$  が 1 対 1 で  $X$  の上への変換であるとする.  $f$  が行列  $A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$  で表現されるとき,  $f^{-1}$  を表現する  $B = \begin{bmatrix} p & q \\ r & s \end{bmatrix}$  は?

考え方 1

$A$  は  $A \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a \\ c \end{bmatrix}$ ,  $A \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} b \\ d \end{bmatrix}$  だから,  
 $\begin{bmatrix} p & q \\ r & s \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a \\ c \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$ ,  $\begin{bmatrix} p & q \\ r & s \end{bmatrix} \begin{bmatrix} b \\ d \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$  だから, ここから  $B$  を求める.

考え方 2  $f^{-1} \circ f = \text{id}_X$  より

$$\begin{bmatrix} p & q \\ r & s \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$$

未知数  $p, q, r, s$  の 4 元 1 次方程式. これを解く.

## 定義 (逆行列)

1次変換  $f$  を表す行列が  $A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$  のとき, 逆変換  $f^{-1}$  があるなら, それを表す行列を  $A$  の逆行列 (inverse)  $A^{-1}$  といい,

$$A^{-1} = \frac{1}{ad - bc} \begin{bmatrix} d & -b \\ -c & a \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{d}{\Delta} & \frac{-b}{\Delta} \\ \frac{-c}{\Delta} & \frac{a}{\Delta} \end{bmatrix}$$

とかける. 略記  $\Delta = ad - bc$  (ギリシャ文字デルタ. ‘デターミナント’).

証明 加藤 線形代数 p.32. 検算は容易.

## 命題 (逆行列の逆行列, 逆行列の性質)

$A$  の逆行列が  $A^{-1}$  であるとき

$$(A^{-1})^{-1} = A. \quad \text{逆写像の逆写像より}$$

$$AA^{-1} = A^{-1}A = E. \quad \text{逆写像の性質より}$$

## L09-Q3

## Quiz(逆行列)

行列  $A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 4 & 3 \end{bmatrix}$  に対して,  $BA = E$  を満たす行列  $B$  を求めよう.

加藤 線形代数 例題 4(p.36)

加藤 線形代数 練習 7(p.36)

(検算容易)

mobius K0.3.30

チーム課題 L09

## 行列のスカラー倍

### 定義 (行列のスカラー倍)

記号  $k \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$ ,  $\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \times k$  を次のように定義する.

$$k \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \times k = \begin{bmatrix} ka & kb \\ kc & kd \end{bmatrix}$$

記号は 空白でも  $\times$  でも  $\cdot$  でもよい (実数同士の積と同じ気分)

### 例

相似変換の表示相似比  $k$  の相似変換 ( $k$  倍の拡大) を表す行列  $\begin{bmatrix} k & 0 \\ 0 & k \end{bmatrix}$  は、単位行列  $E$  を用いて、 $k \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} = kE$  とも書ける.

L09-Q4

### Quiz(スカラー倍の逆行列)

逆行列  $(3 \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{bmatrix})^{-1}$  を求めよう.